

# 臨時農業生産情報

## (高温に対する技術対策)

平成28年8月9日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

仙台管区气象台発表(8月8日14時30分)の「高温に関する異常天候早期警戒情報(東北地方)」によると、東北地方は8月13日頃からの約1週間かなりの高温(7日平均地域平年差+2.4℃以上)状態が続く見込みです。

今後の気象情報に注意し、次の事項に留意して、農作物の適正な管理に努めてください。

### 1 水 稲

- (1) 出穂期から10日間は、開花・受精のため5~6cmの水深を保つ。
- (2) 出穂後6~10日の期間に高温になると、胴割米などが発生し品質が低下しやすくなるので、時々水の入替えを行い、根の老化を防止する。
- (3) 早期落水は品質低下を助長するので、落水の目安「乾田で出穂後30~35日、湿田で出穂後20~25日」を守る。
- (4) 斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予想されているので、適期防除を徹底する。

### 2 野菜・花き

- (1) ハウス等施設栽培では、換気や遮光資材などによる温度管理を徹底する。
- (2) トマトや花き等のハウス栽培では、生育に応じた追肥やかん水を行い、草勢を維持する。
- (3) 高温・乾燥が続くと、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

### 3 りんご等果樹

- (1) 徒長枝の整理、支柱入れや枝つりなどの着色手入れは、日焼け果が発生しないよう高温時には控える。
- (2) 苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を確認し、乾燥している場合は1㎡当たり20リットル程度をかん水する。
- (3) 草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草をする。

### 4 畜 産

- (1) 畜舎の暑熱対策
  - ア 窓を開放したり換気扇や送風機を利用して、舎内の風通しを良くする。
  - イ 日除けの設置や屋根への散水等により舎内温度を下げる。
- (2) 家畜の飼養管理
  - ア 飼料給与は朝、夕の涼しい時間帯に行うほか、給与回数を増やすことで乾物摂取量を高める。
  - イ 新鮮な水を常に飲めるようにする。
  - ウ 乳用牛では特に、乳量や乳成分の低下を防ぐため、良質の一番草を給与するよう

にし、ビタミンやミネラルの補給に努める。また、種雄豚の交配は涼しい時を選び、供用は週2回程度とする。

エ 鶏については、十分に飲水させるとともに、夜間に給餌するなど、給餌時間を変える方法も有効である。

### (3) 放牧牛の管理

ア 放牧は、木陰のある牧区を使い、ミネラルの補給を欠かさないようにするとともに、常に新鮮な水を飲めるようにする。

イ 放牧牛の行動をよく観察し、異常牛の早期発見・早期治療に努める。

## 5 農作業（熱中症の予防）

(1) 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにする。

(2) 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(りんご等果樹) りんご果樹課生産振興グループ 港主査 (水稲) 農産園芸課稲作振興グループ 井上技師 (野菜、花き) 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ 井澤主査 (畜産) 畜産課経営支援グループ 元山技師
電話番号	(りんご等果樹) 直通 017-734-9492、内線 5094 (水稲) 直通 017-734-9480、内線 5075 (野菜、花き) 直通 017-734-9481、内線 5079 (畜産) 直通 017-734-9496、内線 4817
報道監	農林水産部 津島農商工連携推進監 内線 4966

### 【おしらせ】

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンや携帯電話にメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「アップルネット」からお申し込み下さい。